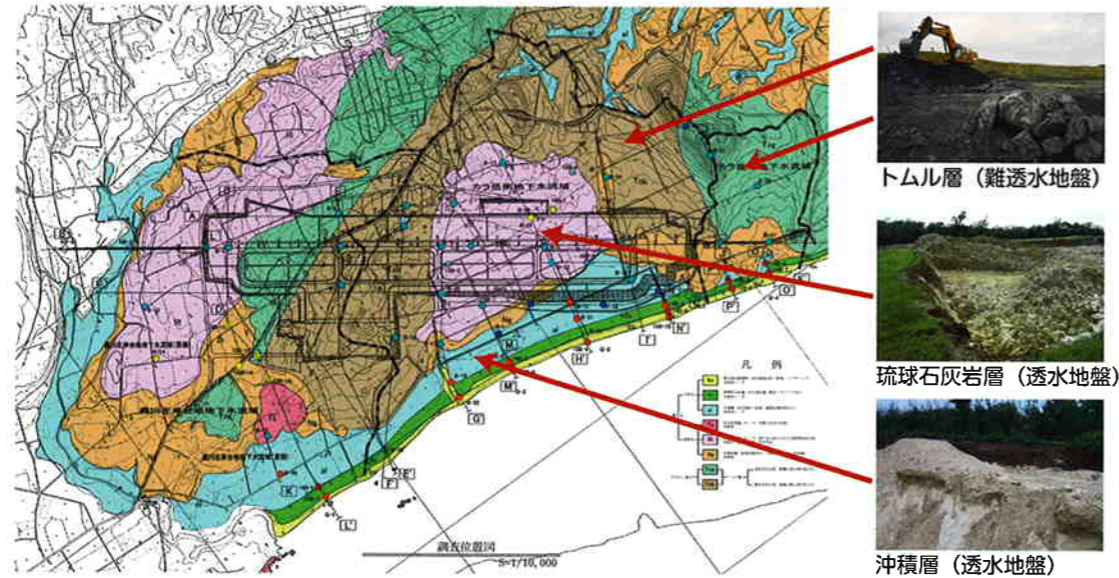




6 地下水の保全対策について

事業区域の地質概要

空港建設地及びその周囲の地盤は、第四紀完新世の沖積層、更新世の大浜層（琉球石灰岩、名蔵レキ層）、古生代のトムル層など、3種類の地質によって構成されており、それらはさらに構成土粒子の量比や岩質等によって合計7種類程度の土層や岩盤に細分されている。

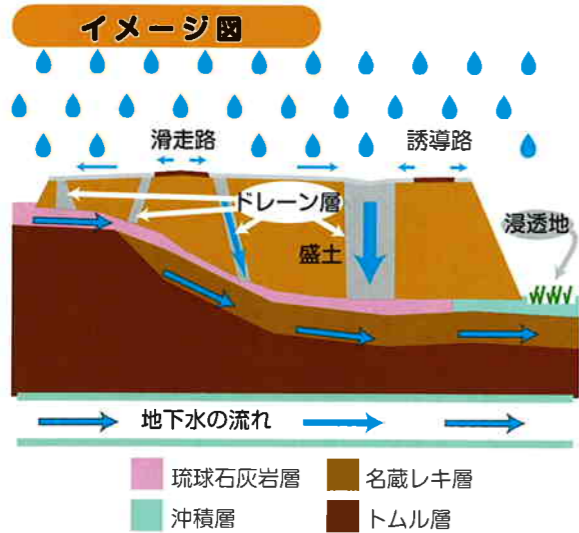


地下水の保全

盛土構造内に雨水を地下浸透させる浸透層（ドレーン層）を設置し、空港表面の雨水を現況と同じ地盤中に地下浸透させ、現況の流出機構を可能な限り変化させないようにします。

また、空港南側やターミナル付近の難透水層の区域については、現況の流況を可能な限り変化させないよう轟川や既設排水路へ排水します。

空港の雨水を空港内で地下浸透させるという工法は、沖縄県その他空港においても実績があり、最近では新多良間空港整備の際にも雨水の地下浸透により、赤土等流出防止対策と地下水の保全を図っています。



新多良間空港における浸透池設置の事例



7 環境に配慮した工事の取り組み

●工事における取り組みの流れ●



環境教育



モニタリング調査



君たちを守るため、工事前にしっかり調査して、工事のおじさんたちには手帳を配布して君たちのことをよく知ってもらっているんだ。



子育てや休眠の時期にも注意してね！



工事区域内に生えている木はほとんどグリーンベルトに移植して、また小動物が取り残されないように工事を進めていくよ。



移植による緑の復元



ぼくらの好物な虫たちがつく木をちゃんと移植してくれているんだね。

工事する箇所の区域や時期にも配慮



工事中にダンブトラックなどにひかれないように、柵も作っているんだよ。

環境監視員が環境対策や赤土対策を日々パトロールしているんだよ。

小動物の進入防止



環境・赤土パトロールの実施